



池袋図書館 月刊情報誌

ふくろう通信

2017年1月号

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

- マークのついている日はたんぼぼおはなしかいです。(午後2:30から2階ワークルームにて)
- マークのついている日はあかちゃんおはなしかいです。(午前11:00から2階ワークルームにて)
- マークのついている日は工作会・スペシャルイベントがあります。(詳細は、次のページへ)

豊島区立池袋図書館

〒171-0014 豊島区池袋3-29-10

☎03-3985-7981

●開館時間●

平日 午前9:00～午後8:00

土・日・祝日 午前9:00～午後6:00

●休館日● (第1月曜日・第4金曜日・年末年始)

【1月】1日(月)～4日(木) 26日(金)

【2月】5日(月) 23日(金)



今月のめだま



あけまして おめでとうございます

今月の池袋図書館でのおすすめの催し物のご案内です！
お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

★たんぽぽこうさくかい★

1月13日(土)

午後2:30から3:30

2階ワークルーム

もうしこみはいりません。

たんぽぽこうさくかい

じゆうに「かお」をはりつけて、
だるまさんをつくらう！



- * 1がつ 13にち とうひ
- * ござ2じ30ぶんから3じ30ぶん
- * いけぶくろとしまかん
- 2かい ワークルーム

※おかけはいりません。
いけぶくろとしまかん 03-3985-7981

たんぽぽこうさくかい

池袋図書館バリアフリー映画会 武士の家計簿

バリアフリー映画とは

どなたでも一緒に楽しめるよう、通常の映画に日本語字幕と音声ガイドをつけた映画のことです。

映画を見ながら小説の朗読を聴いているようなイメージです。



原作『武士の家計簿(お買物家用品)』の原次組新編
磯田道史・著(新潮新書 2003年刊)
監修:森田幸美
出演:堀井勉人、仲間由紀恵、ほか

2018年1月21日(日)午後13:30～
(本編129分)

池袋第三区民集会室 定員60名
事前予約制 1月7日(土)受付開始

電話またはFAX、カウンターで受け付けます。

池袋図書館 電話 03-3985-7981 FAX 03-3985-7486

協力:住友商事

★バリアフリー映画会★

1月21日(土)

午後1:30から

第三区民集会室 定員60名

事前予約制

1月7日(土) 受付開始

電話またはFAX、カウンターで受け付けます。



ふくろう博士の



今月の調べてみよう！

*新年になりました！ここで改めて、「年中行事」について、調べてみませんか？

1. 「年中行事」について知りたい

≪1階(一般)の本≫

年中行事ってどんなものがあるの？

・『市田ひろみの日本人でよかった年中行事としきたり』

市田ひろみ/監修 東京書籍【386 イ】

・『イラスト版 子どもの伝統行事』合同出版【386 イ】

・『食で知ろう 季節の行事』高橋司/著 長崎出版【Y383 タ】

≪2階(児童)の本≫

・『子どもと楽しむ行事とあそびのえほん』

すとうあさえ/文 さいとうしのぶ/絵 のら書店【386】

2. 「全国各地の年中行事」が知りたい

≪1階(一般)の本≫

年中行事にあわせて訪れるのも楽しいかも♪

・『47都道府県 伝統行事百科』神崎宣武/著 丸善出版【386 カ】

・『新版 日本の年中行事』弓削悟/編・著 金園社【386 ユ】

≪2階(児童)の本≫

・『47都道府県ビジュアル文化百科 伝統行事』神崎宣武/著 丸善出版【386】

3. 「縁起物」について知りたい

≪1階(一般)の本≫

縁起物からパワーをもらって素敵な1年にしましょう

・『縁起物 -福を招くかたち-』自由国民社【387 エ】

・『日本のふくもの図鑑』上大岡トメ・ふくもの隊/著 朝日新聞出版【759 カ】

≪2階(児童)の本≫

・『えんぎがいい』雨宮尚子/著 白泉社【E1 3】

*お探しの場合は、図書館スタッフまでお申し付けください。

【暦の話】

1年の初めをどこに定めるか。現在、用いられている太陽暦では、日照時間が最も短くなる冬至を過ぎた辺り、そして日本で古くから使われてきた旧暦では、旧正月は立春の前後であったため、そこには1ヶ月ほどの差が生じます。「暦の上では……ですが」という言葉をよく耳にしますが、旧暦から日付をそのまま現在の日付に移してしまったことが、暦と行事や季節感にズレを感じる一因となっているようです。身近なようで、実は意外と知られていない「暦の話」を二十四節気や七十二候と共に、1年の初めに紐解いてみるのはいかがでしょうか。

『今日から暦暮らし』平野恵理子／著 山と溪谷社 【386 ヒ】

『にほんのお福分け歳時記』広田千悦子／著 主婦の友インフォス情報社 【386 ヒ】

『暦はエレガントな科学』石原幸男／著 PHP研究所【449 イ】

『文科系のための暦読本』上田雄／著 石原幸男／監修 言視舎 【449 ウ】

『暦の風景』野呂希一／写真 荒井和夫／文章 青菁社 【449 ノ】

きょうか しょ ぼん よ

教科書本を読もう！

じゅうにし 『十二支のはじまり』 たに しんすけ ぶん あかさか みよし え
谷 真介／文 赤坂 三好／絵

—2年生 国語 掲載—

「元日の朝、新年のあいさつに御殿にきなさい」年の暮れ、神様から「きたものから十二番まで、じゅんぼんに一年間ずつ、どうぶつたちの王さまにしてやろう」言われた動物たちは元日の朝、御殿へと向かいます。

十二支は古くは中国から日本に入ってきた数詞、数を表す言葉で、昔の日本では、暦・時間・方位を表すために使われました。

現在は、新年や生まれ年くらいでしか使われる機会はなくなりましたが、様々な性格の動物たちが登場するこのおはなしは、今でも十二支をみじかなものとして楽しませてくれます。

指定管理者：(株) 図書館流通センター